

巻 頭 言



代表取締役 兼 社長執行役員

馬立 稔和

グローバル化が進んだ現代社会において、2020年は、世界中が経験したことのない禍の中にいます。急速な変化が要求される中、マクロな経済や社会構造への影響は避けられませんが、将来必要とされる事業や技術の方向性が全く違う方向になることはないと考えています。ニコンにとっても、長期成長領域が変わるのではなく、必要とされる時期が突然前倒しされたに過ぎない面が多くあると考えています。私たちに、素早く反応することの大切さを改めて痛感させてくれました。

素早く反応する力は、普段の積み重ねでしか鍛えられません。ニコンには、設立以来積み重ねてきた「光利用技術」「精密技術」をコアとする技術力があります。ここに社内外の新たな技術も取り入れて積み重ね、磨き、すぐ反応できるようにする準備を今まで以上に行い、ニコンならではの価値を実現していきます。

昨年発行を開始した Nikon Research Report を、今年も発行します。積み重ねてきた技術を、企業価値向上に向けた長期成長領域に広げた成果も掲載しており、本レポートを通じてニコンの歩みの一端をお伝えいたします。



研究開発本部長

木戸 一博

世界中が大変な禍に直面している現在、技術の価値やその応用に対する考え方には、今まで以上に多様性や柔軟性が求められています。このような背景のもと、ニコンの各研究職場および各開発職場で取り組んでいる開発成果を皆様にお伝えする重要性は、更に増していると考えます。

昨年に引き続き、ニコンでの研究・開発成果を広く皆様にお伝えすることを目的に、Nikon Research Report を発行します。2019年度に発売・発表した製品の技術解説と、2019年に外部機関から評価を頂いた論文テーマでレポートを作成しました。ニコンの基盤事業に、創立以来脈々と培ってきた技術を適用した成果のご紹介や、尖り磨かれた技術成果の一端として、理論研究で国内最大の学会から年間最高賞を受賞した成果のご紹介もあります。

本レポートを通じ、我々が取り組んでいる技術を皆様により深くご理解いただき、生み出した成果を幅広く役立てる契機になることを期待しています。